

京都部落問題 研究資料センター通信

第70号

発行日 2023年1月25日(年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

当資料センター主催「差別の歴史を考える連続講座(全八回)」の第五回(一〇月二八日)・六回(十一月一日)の講演要旨は次の通りです。詳しくは年度末に発行予定の講演録をご参照ください。

第五回 近代京都の都市周縁と祭祀

―神輿は誰が昇くのか―

講師 中西仁さん

(立命館大学教員)

近世の江戸・大坂・京都などの都市中心部は権力が集中している地域であったが、そこから大きく離れると農村となりかなり違う世界になる。京都の場合、それは洛中・洛外と表現され、都市周縁とは洛中と洛外の間、洛中でも洛外でもない場所をさす。

近世京都ではお土居の周辺に沿って、かわた村、非人小屋がおかれた。近代以降、かわた村は「被差別部落」「同和地区」となり、一部例外もあるが施策によって改良住宅が建てられたりして人の流動は大きくはなかった。一方、旧非人小屋の地域は住人がほとんど入れ替わり、今ではかつてあった差別の痕跡がなくなっている地域が多い。

この周縁にいた人々が近代に入って祭祀に登場し活躍するようになる。

これまで部落史では祭祀に関して「部落の青年たちが祭りの仲間に加わろうと神輿に肩を入れ、これを阻止しようとする部落外の若者たちと乱闘(中略)これは間もなく裁判に発展した」「明治三〇年代に入ると各地の部落で氏子関係の実質化を求める動きが表面化」と叙述されてきた。『京都の部落史』でも各地での祭祀の際の対立が「差別反対の取り組み」「解放運動の胎動」として取り上げられているが、個々の祭祀の状況を詳しく見ていくとそれは違う側面が見えてくる。紛争↓訴訟↓和解↓祭祀参加という定式には必ずしもなっていないのである。

神輿を昇く集団は三つの類型に分けることができる。

一つは「旅所在地型」。稲荷祭、松尾祭など京都周辺部の大型祭祀で、氏子範囲が広いため限られた村が神輿を昇く。次に「請負型」。祇園祭、今宮祭など京都中心部の大型祭祀で、昇き手が時代によって変化する。三つめは「村落祭祀型」。西院春日祭など京都周辺部

の中小祭祀で、一つの村で一つの神輿を昇くというものである。それぞれで神輿昇きの「論理」が違ってくる。

蓮台野村では今宮祭に際して、近世、小太鼓の修理から始まり太鼓巡行に際しても一切を蓮台野村が差配するようになるが、幕末期に神社より「不浄之もの神事之節、列中え入交り不申様仕度奉存」とされ、蓮台野村は祭に関わることができなくなった。これは皮革産業等で経済力をつけてきた蓮台野村が神事に対して影響力を持ち始めたためその勢力を押しやえつることを意図したものであった。明治四(一八七一)年の解放令により神輿昇に参加するのは当然であるとの認識をもった蓮台野村の人はと神輿昇を要求するが、「神に対して不敬なり」と拒絶される。そして明治二一(一八八八)年の今宮祭で、神輿昇きを拒絶された蓮台野の人々と神輿昇との間で重傷者がでる大乱闘が起こる。その後結局、蓮台野村の神輿参入はならず、今でも先触れの「車太鼓」での参加という形になっているが、祭祀、神輿場が異議申し立てさえ行うことができる公共空間である

こと、近世的な身分感覚が無効であることを他の氏子たちや市民に知らしめたといえる。鞍馬口村はお土居と鴨川の間であり、かつて一部に非人小屋を含んで賤視を受けた村であるが現在は住民が入れ替わりその痕跡は残っていない。

明治一〇年頃、御霊神社側の事情と鞍馬口村の神輿参入の願いが合わさり神輿を昇くようになる。この鞍馬口村の末廣という神輿は「えらいやっちゃ」と踊るように昇く独特なものである。これは鞍馬口村が関わっていた疱瘡神を喜ばせ善神に転換する芸能「疱瘡送り」と関係するものと思われる。

疫病の原因と考えられる御霊を喜ばせ都の外に送り出す御霊会の目的や方法と共通し、「えらいやっちゃ」と神をほめたたえて喜ばせようとしたのではないか。鞍馬口村は独自の昇き方で存在をアピールし、神輿昇きに祝祭的な要素を付け加えたといえる。

東三条にある若竹町は、近世末より願昇(助人)として祇園祭の神輿に関わり始めた。徐々に勢力を伸ばして「主要な昇方」となり明治四二(一九〇九)年には東御座の神輿を単独で昇くようになる。

その後も祇園祭での派手な喧嘩などで存在をアピールし、大正一二(一九二三)年にはその存在を認められ、祇園祭東御座神輿の神輿昇き集団という威信の高い地位を手に入れる。これは戦略的で長期的な計画の上での神輿参入であり、これまで叙述されてきた部落史の定説とは違うものである。これらの動きから、都市周縁の人々が持つ活力や多義性が都市祭礼の活性化の原動力となったことがわかる。近代を画期とした京都の祭礼の変化を語るときに周縁の人々の存在を抜きに考えることはできないのである。

第六回
初期社会主義と部落問題
講師 福家崇洋さん
(京都大学人文科学研究所)

一九二〇年代初頭に日本で共産党が設立されて以降、日本の歴史学は共産党員や共産主義者の強い影響下にあったこともあり、「明治社会主義」を「大正共産主義」に至る前史・前座と捉える歴史観が醸成された。一九八〇年代後半からのロシア共産主義の退潮を受け、共産主義への批判的な再検証

が世界的に始まり、そして一九九一年のソ連崩壊を大きなきっかけとして新しい社会主義の意義を模索する動きが活発化した。同時期の日本では「明治社会主義」を見直す運動が起こり、一九八六年に初期社会主義研究会が東京で発足し、雑誌『初期社会主義』が創刊された。

「初期社会主義」と「部落問題」のかかわりに着目する理由は、私が戦前の社会運動史に対して疑問を持つからだ。初期社会主義者は当時の社会運動において日本政府や帝国主義列強を対抗勢力として設定し、対抗勢力が巨大で強いほど、そのための抵抗勢力も巨大で強くなければならないという思考がはたらいた。しかし一方で、女性やマイノリティ、被差別部落に対する軽視や抑圧が発生した。

あるいは、日本を中心に考えるあまり植民地の存在を軽視し、問題を周辺化した。本来、社会運動は巨大な敵の抑圧からの解放を目的とするが、その解放が別の抑圧を生み出す危険性をはらんでいる。初期社会主義者は政府の弾圧、日露戦争への抵抗のなかで「解放」をどう考えたのか検討したい。

近年の研究によると一九〇〇年前後に「近代部落問題」が成立したとされ、当時は「特殊(種)部落」という名称で部落差別がおきていた。一八九八年の社会主義研究会発足、一九〇一年の社会民主党結成などから、「近代部落問題」と「初期社会主義」は同時期に登場したことがわかる。当初、「部落問題」は「人種問題」として理解されていた。下層社会に理解があるとされた当時の識者でさえ被差別部落の人々を「異人種」と捉えていて、「部落問題」の解決策として被差別部落の人々の海外への移住を掲げる言論が多くみられた。

堺利彦は初期社会主義者の代表的人物のひとりとして知られる。一九〇三年、堺は記者として日刊新聞『万朝報』に「人種的反感」を発表した。この「人種」という言葉はユダヤ人や世界の国々の人種を表現したもので、世界的にみられる人種差別の野蛮性を批判した。またその中で日本の「劣敗人種」という言葉でアイヌ人と「新平民」にも言及した。「日本人にして深くその国内の劣敗人種に同情を寄せ、日本国民にして深くそ

の近隣諸国民を敬愛し、相共に人種同胞の大義を唱え、欧米白人と相並んで世界のことを処するに至らば、その時にこそ東洋の文明は初めて真に偉大なる光輝を発揚すべきなれ。」と、堺は文明側の地点から「劣敗人種」に対する偏見の解決を主張し、その延長線には文明化による差別克服を望んだ。

前田三遊は中江兆民の仏学塾で学んだあと『東雲新聞』入社、その後『芸備日日新聞』『東京自由新聞』で記者をした。中江を通して被差別部落の人びとと交流した経験をもつ人物でもある。一九〇三年総合雑誌『中央公論』に「天下の新平民諸君に檄す」という論文を発表し、「人道及徳義は、すべての場合に於て、卿等〔「新平民」を指す〕を侮辱することを容さざるなり。卿等が自から侮り自から蔑むは、理に於て然る可からず。卿等それ宜しく自から任ずる所重く、自から負ふ所大なるべし」と述べ、被差別部落の人びとが「結社」を通して「第二の革新」を起こすことを説いた。また、一九〇四年に『平民新聞』の「新平民をどうする」という論説で「一、新平民族に関する人権問題が生じ

たときは、之に対して充分賛助し

たときは、之に対して充分賛助し
応援して下さる事。」「四、新平民族に関する世人の謬見及其迷信を打破することに勉めて下さる事。」と、幸徳秋水らへの要望を述べた。ほかに「新平民族」出身学生への支援、事業奨励、教育の現状・職業の調査による発達進歩など社会的献策を提唱したが、平民社関係者で前田に呼応する声や取り組み、運動はみられなかった。

当時前田の意見は先進的なものだったが、日露戦争後に論調の変化をみせる。その一つが国民同化論だ。前田は「挙国一致と新平民」のなかで「新平民君は、国民として同心一体たる可く、一切の義務を果しつゝあり」と述べ、日露戦争で新平民も国民の義務を果たしたので差別をやめるよう説いた。二つ目に海外進出論が挙げられる。「新平民が大に奮発して海外に移民し、そこに発展して新郷土をつくり、大なる勢力を打立てること」と、一九〇〇年から続く海外移住論を前田も同調するようになる。日露戦争後、日本の挙国一致の気運のなか、新平民の生きる道として国民への同化、あるいは海外進出という、二つの解決論を前田は

提唱することとなった。

初期社会主義者は弾圧下でも「人種」差別を批判し、人類同胞主義を掲げるといふ重要な功績がある一方、彼らにとって「部落問題」は周辺の問題として扱われた事実は否めない。被差別部落の人々は「貴族」対「平民」という社会運動上の対立図式から抜けておちてしまう存在であった。まとめると、初期社会主義者のなかで「排除」と「包摂」の二つの論理があったことがうかがえる。被差別部落民に対する「異人種論」やそれに基づく「海外移住論」が「排除」の論理にあたる。そして「包摂」の論理は当時の融和運動に見られる「文明化」の論理や、日露戦争前後の「国民化」の論理だ。「包摂」の論理と「排除」の論理は表裏一体で、文明・国民の内側には序列をもたらし、被差別部落民は「新平民」として差別され続けた。そして外側には「野蛮」な存在や「非国民」を新たに生み出した。

一九一〇年に大逆事件が起こり、政府が弾圧を強めるなか、社会主義者は「非国民」として冷眼視されるようになる。国民の外側に排

除された社会主義者たちは改めて

「国民化」の問題性を捉えなおすことになった。また、多数の死者を出した日露戦争・第一次世界大戦は彼らに「文明化」への批判的な視座をもたらし、初期社会主義者のなかで「排除」と「包摂」の論理が対象化された。堺利彦は売文社を結成、雑誌『新社会』を発行し、和歌山の被差別部落民の投書への回答のなかで、「我々は固より貧民の党である、賤民の伴侶である。我々は此の多数なる貧民賤民が、即ち新社会建設の任務を帯びて居る事を確信する者である。我々は最も多く苦しみ、最も深く憤る者に対して、最も大いなる希望を属せざるを得ぬ。従つて『新平民』諸君は我々の最善の友、最親の友であらねばならぬ。我々が諸君を慰めると云ふのは既に僭越である。我々は寧ろ只諸君の提携と協力を切望すべきである。〔中略〕」と述べ、当事者が自ら問題意識を持つて結社し、運動を起こすことが今後の問題解決において重要だと訴えた。社会主義者が被差別部落民を信頼することに、後の水平社結成にも繋がった。

本の紹介

吉村智博 著

『近代大阪の都市周縁社会 市民・公共・差別』

本岡拓哉

(同志社大学人文科学研究専任研究員(助教))

はじめに

本書は『近代大阪の部落と寄せ場―都市の周縁社会史』(明石書店、二〇二二年)以来、著者が発表してきた論稿を集め、再編集し、近代

大阪の都市周縁社会と、サブタイトルに掲げられる「市民・公共・差別」の関係性に迫る内容となっている。具体的には、被差別共同体(マイノリティコミュニティ)として五つの地区事例(舟場部落・西浜

部落・釜ヶ崎・長柄地区・恵美地区)が取り上げられる。一九二〇年代から一九五〇年代の各地域の実態が丹念に描かれ、近代日本の市民社会がその成立の前提として位置

づけられ、その状況に対応したのが明示されている。部落、寄せ場、スラム(不良住宅ないしバラック形態で居住する共同体)の実態を多様な史資料から深く掘り下げ、と

りわけ戦時体制期を挟んだおよそ四十年間にわたる、被差別共同体に固有の地理空間や歴史過程、結合様式といった諸相が丁寧に検討されている点に本書の特徴がある。

本書の概要

本書は序章、五章、終章で構成される。各章の内容を幾分詳しく紹介していくと、まず序章「都市周縁社会史研究の課題と方法」では、本書の焦点である公共性を「近代社会において、恒常的に被差別共同体をその来歴(種姓や血統など)によって排除しつつ包摂し(包摂しつつ排除し)続け、秩序的安定を維持するために必要不可欠の領域として設定する圏域」(一〇頁)と位置付ける。それを踏まえて先行研究を振り返ったうえで、「第一に、総力戦体制の支持基盤となった「近代」あるいは

「戦前」形成の地域構造が一九五〇年代へと連続していくと把握する視角が共有されていること、第二に、部落、寄せ場、スラムなど被差別共同体を地理空間をも意識しつつ包括的に論じた研究はまだ十分蓄積されていないとはいえ、一九五〇年代に焦点を絞った研究もあらわれつつあることが明確となった」(二二頁)とし、上記したような本稿の目的や意義が明示される。

第一章「地域改善と部落」では、近代に創出された大阪市北区の舟場部落を事例に、地域改善事業の後に大きく変化していく共同体の諸相を通して考察するものである。舟場部落の生活構造の究明とともに、地域改善事業の内実を可能な限り詳細に検討することで、同和行政の適用を受けずに「解体」「消滅」、すなわち市民社会と融合化していった部落共同体の結合様式とその論理が解明される。

今少し内容に踏み込むと、当地の歴史的経緯として、十九世紀末以来、国家プロジェクトとして推進された新淀川敷設工事によって旧部落が移転することで、新たに

当該部落が成立したことが示される。そして地区形成以来、風紀の「改善」が必要と認識され、所轄の曾根崎署が率先して取り組んだこと、そこでの論理的根拠となっていたのが内務省の改善事業方針であったことなど、常に国家が期待する「市民社会」に融合化していく素地があったという。

一方、当部落の生業構成において、履物修理業といった個人経営的職種が高い専有率を示し、その後、当地周辺で更なる都市化、工業都市の一角を形成するようになると、工場労働者の存在もかなり目立つようになる。まさに都心をとりかこむインナーシティに形成された典型的な都市部落であり、融和事業が重点的に施策されていく素地を有していたことがここに提示される。また、第二章で扱われる西浜部落のような、巨大な皮革産業資本を頂点とするヒエラルヒー構造に対して、当地は産業構造の崩壊(恐慌など)に直面した場合には、いつでも共同体的紐帯を分割し、解体する性格を多分に要していたことが指摘されている。そして戦後、自営業者などを基本

とする安定した収入層が増加するなか、よりの側面は強まっていた。一九五〇年代終了とほぼ同時に、行政施策からの一定の自立がはかられ、事実上、共同体は解体され、「市民社会」に融合する道が選択されたというのが本書の主張である。

続く第二章「住宅施策と部落」においては、大阪市浪速区にある大規模な西浜部落が対象となる。近代以降、皮革産業の一大拠点として労働力と共同体を再生産してきた当地域での住宅要求闘争の論理と内実を分析することで、一九五〇年代における住民結合のあり方や錯綜する人間関係が明らかとなる。

本章ではまず一九二〇年代から一九五〇年代までの不良住宅地区改良をめぐる歴史的系譜として、社会運動などの社会的系譜、法的規制や行政の動向などの都市政策的系譜、官僚や中央省庁における動向を踏まえた政治的系譜が図によって整理される。この図から理解できることを要約すれば、一九二七年施行の不良住宅地区改良法の施策範囲が主として大都市域の

スラムに限定されており、内務省所管の融和運動が主力事業として進めていた土地地区画整理事業や住宅改良事業とはまったく位相を異にして進捗していたのである。

以上を踏まえて、当地の産業構造や階層実態の特徴として抽出されるのが、町長や議員、皮革業経営者ら名望家が局的に居住する中心部と、職工などが暮らす長屋群や工場などが多数偏在する周縁部で居住環境に大きな落差があったことである。こうした特徴がその後の行政による住宅施策や地域からの住宅要求闘争のあり方に反映するといふ。

そして、戦後、空襲により焼け野原となった西浜部落にバラックが立ち並ぶなか、行政による住宅施策の展開、さらには地元からの住宅要求運動へと話が進む。かなり端折った要約となるが、一九五〇年代以降、改良住宅建設によって景観が変化し始めるとともに、裾野の広い民主主義の主張を掲げた運動が展開され、既存の地域有力者による生業や自治を掌握する旧来の秩序構造の再編が迫られていくことになる。当地はその後、

同和对策事業による国家保障型総合事業を重点とした地域をベースとした大衆運動を進めることになったわけであり、ここに第一章で取り上げた舟場地区との分岐がみられるかと思う。

第三章「労務行政と寄せ場」は、釜ヶ崎地域および日傭労働者に関する歴史過程が扱われる。日傭労働者が置かれていた社会的位置、労務行政や労務供給構造との関連性、加えて、戦後に再編される木賃宿街との関係が検討される。

まず、第一次世界大戦期前後の状況に対応して、日傭労働を専門に斡旋する労働紹介事業が開始された一九一〇年代から論じられていく。当初の職業紹介事業や宿泊厚生施設関係者の認識では、治安目的の規制と教化が方針の軸に据えられていたが、一九二〇年代に入ると、労働運動の展開やILO勧告を受けての職業紹介法の制定、公設無料職業紹介所の設置義務づけなど、それまでの部分的失業者対策から本格的失業救済事業が展開されていく。そして、一九二六年から一九三八年までの大阪市の全労働紹介所の紹介者数実績を踏

まえつつ、寄せ場の社会的機能が政治的・行政的に創出されていたことが明示される。

続いて、一九三八年以降の国家総動員体制をめぐる釜ヶ崎での動向が検討され、とりわけ国民徴用令以降、労務供給業者の団結と国家への道義的忠誠心を扇動する機運が高まり、道府県労務報国会などの設立へと至り、総力戦体制と寄せ場との関連が日傭労働者の日常生活の細部にまで浸透していることが示される。

以上の歴史過程を踏まえて、本章の核心に置かれるのが、釜ヶ崎の社会的機能が一九五〇年代に政治的課題として一挙に再編されていくという視点である。すなわち、同時期に国・自治体による公的政策を通じて「公共」セクターが持ち込まれ、「市民」化、「国民」化を理念に自立する労働者像が求められたということである。本章では、一九三八年開校の徳風勤労学校（通常教科に加えて作業時間が多くを占める各種学校、四一年から国民学校）の「講堂」が一九五〇代に改修され今宮市民館などに再利用されたことが空中写

真を用いつつ明らかにされ、「国民」学校が「市民」化の装置として機能したことが示される。そして、寄せ場たる釜ヶ崎の物理的再編成と機能的再活用 of 思想的な相乗効果が図られたとの結論へと至るわけである。

第四章「社会事業とスラム」では、第一章の対象、舟場部落に近接する長柄地区の生活来歴や実態が明示される。また、一九二一年に天神橋筋六丁目交差点に設立され、当地のセツルメント事業の拠点となった北市民館を研究対象として、一九五〇年代に至るまでの当館の歴史的意義とともに、そこで活動方針とされた協同組合主義が再検証される。

本章では、近世末以来の行政区域の推移とともに、一九一〇年代における急激な都市化、工場労働者や日傭労働者を含む人口の増加、そしてさまざまな社会事業の開始、それに伴う施設の立地展開が、地図を用いて明らかにされていく。そして、一九一八年の当地における米騒動の発生は、民衆の「暴徒」化の契機を予防する施策の必要性を中央官僚や地方公共団体に自覚

させることとなった。その具体策として方面委員制度が導入され、公的および私的性格を併せ持つ広範な社会事業が展開できる素地がこの頃に形成されていたと著者は指摘する。

こうした状況のなか創設された北市民館の方針や活動状況が検討される。ここでの論点は、北市民館が一九五〇年代に至るまで長柄地区の生活困窮を必ずしも改善できなかったことにある。その理由として、当初は個別事業尊重の方針として個別事業主への生業資金貸付がうかがえるものの、直後に協同組合主義に基づいた信用組合重視の方針へと展開すること、また、不良住宅地区における「国民」や日傭労働者の教化・指導路線を邁進するものの、やがて総力戦体制のもとで厚生事業論に同調し、総力戦を担っていたことが提示される。さらには不良住宅地区の改良が総力戦体制下において頓挫するものの、ようやく一九五〇年代後半の不良住宅地区改良事業により当地の居住環境が大きく変容したことで、北市民館の活動実践も軌道修正されていくことになっ

たのである。

第五章「自治組織とスラム」は、一九五〇年代において大阪の最大のバラック地帯だった恵美地区の生活構造を整理したうえで、当該地区で展開したスラムクリアランスをめぐる状況が検討される。

少し前後するが、まず本章で示されるのは、恵美須三丁目、馬淵町、水崎町で構成される恵美地区の来歴と、当地に対する社会の認識と行政対応である。特に一九五七年の大規模な火事によって、大阪市がバラック居住者への対策を一定考慮しつつ、行政施策を進めなければならぬ状況にあったことが明示される。

そこでクローズアップされるのが、当地において町会組織が複数存在し、それぞれで自治が展開していたことである。町会の機能としては、水道・街灯・共同便所の管理、区役所・警察・学校等との交渉、犯罪者の引き取り、毎年盆踊りをはじめ、町会費の徴収や祝儀や弔慰金などもあったという。評者自身、同時期の各地のバラック街を調べているが、こうした実態の規模や多様性を他で見たこと

がなく、史資料によるその存在の明示だけでも意義がある。

また、就業構造においては多様な職種の存在が浮き彫りとなる。加えて、町会の中心となる地域有力者とバラック居住者の間で居住・就労面での庇護が行われていたこと、すなわち扶養・恭順関係が展開していたこと、そしてそうした関係が、町会と都市行政（区役所や警察、保健所など）や地域社会（学校や自治会など）と密接な関連性のなかで存続していたことが示される。

一九六〇年代以降、大阪市による当地のクリアランスが展開するなか、更生施設などへの収容を念頭に置くバラック居住者の立ち退き交渉が行われていくが、その際、町会が行政当局との間に立つ場合が多かったという。そこで、居住者たちは公的な生活環境に順応していく必要性、つまり「市民社会」において標準化された生活様式への転換が迫られていったわけである。そして、終章「総括と展望―市民・公共・差別」では、一九五〇年代における都市周縁社会の変容をもたらした諸関係について全章の論点が整理される。ここで改め

て提示されるのが、近代都市大阪の周縁社会である被差別共同体と公共性との関係は、いわゆる「戦前／戦後」を分断して捉えるべきではなく、その間、継続や再編、変容が展開していたということである。そのことを敷衍しつつ、とりわけ一九五〇年代において各共同体での質的転換、そしてそこで公共性のあり方が再定置されていくことが提示される。市民社会との関係性（融合となるか、あるいは抵抗となるか）、当地に対する差別意識のあり方（解消となるか、再生産されるか）を規定することも読み取られている。本書がこの時代を取り上げた意味がここに明示されるのである。

本書の価値

以上、各章の内容について私見を含みつつまとめてみたが、ここでは人文地理学をベースに近代の都市空間を対象としてきた評者の観点から、本書の価値を提示しておきたい。

まず、本書の特徴として、各時期の地形図や空中写真を用いて、単に地域の景観の変化や施設の利

用の転換を確認するだけではなく、その空間的配置の変容に孕む社会の変化や政治的意図を読み取るうとする姿勢がある。これはすなわち、フランスの思想家アンリ・ルフェーブの「空間の生産」論に代表される、空間を所与のものとして、能動的なものとして捉える視点であり、それを実証的な歴史研究に取り入れたことの価値は高い。

また、終章で「それらのエリアは「シカゴモデル」の「推移地帯」に他ならない」（二〇九頁）と記すように、著者は対象とする被差別共同体を、社会学者アーネスト・バージェスの同心円地帯モデルにおける「推移地帯＝遷移地帯（zone of transition）」に位置する地域として取り上げている。二〇世紀初頭のシカゴを事例に提示されたこの同心円地帯モデルによれば、大都市の成長は都市空間（市街地・住宅地区）の外延的拡大を伴い、中心業務地区を核にして、その周りに工場地帯、遷移地帯、労働者住宅地帯、優良住宅地帯、通勤者住宅地帯が同心円状に分化していく。そして、この遷移地帯は工場地帯と労働者住宅地帯に挟まれ、時に

生活環境が悪化しやすく、スラム（不良住宅地区）が形成されやすいと言われる。近代都市大阪はこの同心円地帯モデルが当てはまりやすいとされ、上述の著者の記述は妥当である。

そのうえで述べたいのが、まさにそれぞれの被差別共同体の状況は決して孤立したものではないということだ。すなわち、都心から幾分離れて円を描く遷移地帯（大阪ではおよそJR環状線沿い周辺か）に位置する他地区と連動していたということ、さらには都市や国家スケールの政治および社会状況とも関係がある点を本書からは読み取れるのである。そこでは遷移地帯が上位のスケールや中心性によって形成されたという側面ではなく、その地帯に含まれる各地域、共同体、組織、そしてそこに生きる人々の営為や状況性が連動することで、中心たる都市行政や国家に影響を与えているということを確認できる。

評者は常々、同心円地帯モデルにおいて、他の地帯では住宅や工場など、固定されたもので表現される一方で、遷移地帯のみが動態的な意味合いを含んでいることに

注目していた。バージェスが意図したかはさておき、本書を通じて改めて、この地域が遷移、変化していることとともに、都市全体を（ひいては国家すらも）何らかの形で駆動させているということが想起されたわけである。まだ「生煮え」な評者の考え方であるので恐縮であるが、いずれにせよ、本書は遷移地帯「を」、また遷移地帯「から」考える意義を十分に示してくれたものと評価したい。

以上、これまでの著作と同様、本書も大変読みやすい文体となっており、また多くの参考文献や考察資料が提示されている。今後、当該分野の研究を進める上での見取り図としても大いに活用できるかと思う。多くの人々にぜひ読んでもらいたい。

（近現代資料刊行会、二〇二二年五月、五〇〇〇円＋税）



■部落解放研究 271■

(部落解放・人権研究所刊 2022.11.30) 2,000円+税

◇[特集] ソーシャルワークと教育

- ・特集にあたって — 「教育」をソーシャルワークという観点から再考する — 棚田洋平
- ・教育福祉の観点からみたスクールソーシャルワークの役割 — 系譜と展開からその本質を再検討する — 高橋味央
- ・教育権保障と学校づくりの課題 — ウェルビーイングの観点から — 高田一宏
- ・地域共生社会のネットワーク構築に向けたアクションリサーチ — 大阪府高槻市富田地区社会的企業の取り組み — 岡本工介
- ・学校内の「居場所」の意義と可能性 — スタッフ・子ども間の関係性に着目して — 中西美裕
- ・外国にルーツをもつ子どもの地域教育支援 — 官/民の枠を越えた複層的なネットワークに焦点を当てて — 瀬戸麗
- ・児童家庭センターと学校の連携体制構築における課題と可能性 — センター職員へのインタビューから — 宇陀智佳

◇[論文]

- ・「鳥取県被差別部落住民生活困りごとの調査」結果と課題 谷川雅彦
- ・玉置哲淳による人権保育カリキュラムの前提としての自己形成論 吉田直哉
- ・「解放の学力」論の展開と内包した課題 — 横田三郎と鈴木祥蔵の議論を事例として — 板山勝樹

◇[書評]

- ・地域から在日朝鮮人史を学ぶための二冊 — 塚崎昌之著・編『大阪空襲と朝鮮人そして強制連行』、斎藤正樹著『ウトロ・強制立ち退きとの闘い』 — 高野昭雄

■紀要 部落問題研究 242■

(部落問題研究刊 2022.9)

- ◇[部落問題文芸作品発掘 その17] 「水平運動展開の文芸作品とその書誌情報・解説(続)」 秦重雄
- ◇[研究ノート] 「近世かわた村民から近代大字住民

への展開 — 紀州の事例から — 藤本清二郎

- ◇[部落問題解決過程への証言] 「部落問題解決と裁判闘争 — 1986年の政府の方針転換をめぐる — 石川元也弁護士インタビュー記録 — 話し手 石川元也 (聞き手 石倉康次)
- ◇[書評] 松尾壽著『近世後期隠岐嶋流人の研究』 茂木陽一

■部落解放新聞 378■

(部落解放同盟全国連合会刊 2022.9.10) 200円

- ◇8/24 全国連と狭山大運動、東京高裁・高検に要請行動実施
- ◇8/27・28 全国青年交流集会開催

■部落解放新聞 380■

(部落解放同盟全国連合会刊 2022.11.10) 200円

- ◇狭山裁判 全国連からの緊急アピール
- ◇石川一雄さんの10・31アピール
- ◇狭山現地調査(10.30)に参加して 鶴丸春吉
- ◇初めての現地調査 吉岡剛

■部落解放研究くまもと 84■

(熊本県部落解放研究会刊 2022.10.31)

- ◇[特集] ・私と解放運動 中田重男
 - ・教育と水俣病事件 石井雅臣
 - ・大正期の部落問題とメディア 矢野治美

■むこうにみえるは ウェーブ21通信 25■

(NPO人権ネットワーク-ウェーブ21刊 2022.11.15)

- ◇藤森竹田児童館で「kidsウェーブ レクリエーション」(7.9)報告
- ◇ウェーブ21会員の学習会(7/26)報告
- ◇「おはなしワンダーランド2022」(10/15)報告

■リベラシオン 187■

(福岡県人権研究所刊 2022.9.1) 1,320円

- ◇松本治一郎旧蔵資料(仮)紹介6 — 山本翠から松本治一郎への手紙 — 布引敏雄
- ◇「停滞期」における解放教育の「内部」での課題 2 「実践的な課題とその克服の方向性」 板山勝樹
- ◇[図書紹介] 木村政伸『教室の灯は希望の灯 自主夜間中学「福岡・読み書き教室」の25年』 大塚正純
- ◇[人権コラム] 差別の根は深い 松崎真治

〈コロナ禍と教育〉

- ▶感染症拡大は子どもたちに何をもたらしたか
コロナ禍と教育 池田賢市
- ▶「コロナ差別」を考える 人権教育の視点から
高田一宏
- ▶当たり前を問い直す 新型コロナウイルス感染症
からの『教育の創造的復興』をめざすとりくみ

〈ICTと教育〉

- ▶GIGAスクール構想をめぐる政策動向とそこから
見える可能性と課題 森田英嗣
- ▶とよなか国際交流協会におけるメディア・リテ
ラシー活動 マイノリティの視点から 登丸あす
か/田島和之
- ▶「個別最適で協働的な学び」とは 中教審答申か
ら「改革」を問う 佐野利男

■部落解放 830■

(解放出版社刊 2022.11.10) 600円+税

◇[特集] 交差性・複合差別

- ▶特集にあたって 李杏理
- ▶部落女性の歴史から考察する交差性、複合差別宮
前千雅子
- ▶「社会」は失敗し続けるのか? —障害女性と複合
差別— 飯野由里子
- ▶在日朝鮮人女性にとっての交差性・複合差別を考
えること 李杏理
- ▶00年代から振り返って見えること —社会運動の
はじめの一步としてのインターセクショナルティ
— 栗田隆子

◇「戦前」の今、「反戦の書」を読む44 日高六郎
著『戦争のなかで考えたこと』 河村義人◇性の多様性への偏見・差別・無理解への“気付け
薬、—渋谷区立松濤美術館「装いの力」展— 藤
田正◇[座談会] 部落問題の映像化に挑戦 —ドキュメンタ
リー映画「私のはなし部落のはなし」をめぐる—
— 満若勇咲・大島新・黒川みどり・松村元樹◇[第1回 西光万吉文化・平和活動奨励賞受賞団体決
定!]

- ▶西光万吉文化・平和活動奨励賞がめざすもの
飯田敬文
- ▶福を運び続ける「三番叟まわし」辻本一英・中
内正子・南公代

◇[新連載] 部落解放史の最前線1「身分の発生過程
と古代の「賤」身分」寺木伸明◇[グラビア] 異性装の歴史と多様な私たちの性—
「装いの力—異性装の日本史」 写真=森聖加/
文=藤田正

◇[水平線] 夢を持ってない国・日本 樋口直人

◇[人権いろいろ] 政治と統一教会 福島みずほ

◇ヘイト・スピーチを受けない権利 —SDGsと人種
正義を考える— 前田朗

◇[本の紹介]

- ▶組坂道子 文と絵『春遠からじ—思い出のピース
たちと』 鎌田慧
- ▶朝治武著『全国水平社1922—1942 差別と解放
の苦悩』・藤野豊・黒川みどり著『人間に光あれ
日本近代史のなかの水平社』 駒井忠之

◇[じんけん切り抜き帳] (2022.8.10~9.10)

■部落解放 831■

(解放出版社刊, 2022.12) 600円+税

◇[特集] 「識字・水平社100年宣言」をめざして

- ▶特集にあたって 森実/「水平社魂」を受け継いで部
落解放の教育と識字 界外吉弘/私たちの識字新宮
識字学級/教室はふたつめの家族 日之出よみかき
教室(木曜日)/生きることを励まし、つながる
識字 狭山事件が提起する識字と教育の課題 小原
武次郎

◇ヘイト・スピーチを受けない権利 90 ウトロ等放
火事件刑事—審判決評釈 前田朗◇天王寺・文の里夜間中学の存続を 2020年国勢調
査結果をふまえて 白井善吾◇偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる
人生被害 21 無人のジャルマ島で生まれて 福岡安
則◇部落解放史の最前線 2 かわた身分(被差別部落)
の起源の歴史的前提 寺木伸明

■部落解放 828■

(解放出版社刊 2022.10.10) 600円+税

◇[グラビア] 150年前の皮革職人の社会的価値を現代の暮らしと文化につなぐ 水野松男

◇[特集] 奈良から人権教育を発信する

- ・座談会『水平社創立100年、むなつき坂をこえて、包摂の社会の構築をめざして 田仲敦三/大濱幸枝/矢追博美/藤本吉勝/南浦雄大/岡部太郎

- ・『融和教育から同和教育へ 奈良県における歩みから』井岡康時

- ・『むなつき坂をこえて、すべての人を包摂する社会の構築を奈良の地から 奈良県の同和教育・人権教育の歩みと第73回研究大会への期待』中村衛

◇「戦前」のいま、「反戦の書」を読む『大江健三郎往復書簡暴力に逆らって書く』河村義人

◇素晴らしい国際人権活動家、武者小路先生の遺志を受け継いでいくことをお誓いします 組坂繁之

◇追悼・寺澤亮一さん 川口正志

◇新委員長・新書記長に 聞くこれからの部落解放運動

◇150年前の皮革職人の社会的価値を現代の暮らしと文化につなぐ と畜からはじまる私たちの暮らしと文化 水野松男

◇教科書無償運動の新資料発見 吉田文茂

◇水平線「死の意味再考」早川佐知子

◇じんけん切り抜き帳 (2022.7.10~8.10)

◇[本の紹介]

- ・『京都の部落解放運動史 一水平社創立100年』紹介者 八箇亮仁
- ・水平運動を支援した魅力的な弁護士 森正『ある愚直な人道主義者の生涯—弁護士布施辰治の闘い』朝治武
- ・解放教育思想の「原像」を問う 板山勝樹著『戦後日本における反差別教育思想の源流—解放教育思想の形成過程』桂正孝
- ・識字・日本語学習ブックレット4『教室は、ふたつめの家族—識字・日本語学習における居場

所・出番・物語』菅原智恵子

- ・木村嘉代子著『朝鮮人「徴用工」問題を解きほぐす—室蘭・日本製鉄輪西製鉄所における外国人労働者「移入」の失敗』神林毅彦

- ・大阪空襲75年朝鮮人犠牲者追悼集会実行委員会発行 塚崎昌之編著『大阪大空襲と朝鮮人 そして強制連行』文箭祥人

■部落解放 829■

(解放出版社刊 2022.10.25) 600円+税

◇[特集解放教育] 学校を変える「被差別マイノリティの子どもたちpart4」

〈人権・同和教育〉

- ・いつか自分の授業で部落の子に出会う日をめざして 野村頼和

〈インクルーシブ教育〉

- ・共に生きることの意義 障害者差別と闘う共生堀智晴

- ・学校内外が連携した支援チームの活用 不登校事例を通してインクルーシブ教育を考える 榎久美子

- ・ともに生き、ともに学び合う学級・学校をめざして 子どもどうしをつなぎ、分けないために 谷口吉一

〈ジェンダーと教育〉

- ・対等な関係性を学ぶ性の教育「リプロダクティブ・ヘルス/ライツを知ろう」 神代恵美

- ・性別で合否が変わっていいのか 東京都立高校男女別定員撤廃へ向けて 島田庸

- ・外国人として、トランスジェンダーとして 朝鮮学校でまなぶわが子の記録 李史織

〈多文化共生と教育〉

- ・アイデンティティの確立をめざした外国につながる子・保護者への支援 小山那実

- ・チームでつくる温かな学校 違いを認め、共に生きる仲間づくり 矢野美智子

- ・ちがいを尊重する多文化共生教育の構想をめざして 大阪の人権教育の視点からとらえ直す 山田文乃

い・支えない・なくす努力を学ぶ」ということ6

松村元樹

◇[連載] 走りながら考える254 社会の様相を変える
科学技術の進歩 北口末広

◇[連載] 本の道草103 へんな文? 正しい文? 冠野
文

◇[連載] 映画を通して考える「もう一つの世界」映
像のなかの在日5 中村一成

◇人権をめぐる動き(2022.8.11~2022.9.10)

■月刊 ヒューマンライツ 416■

(部落解放・人権研究所刊 2022.11.10) 550円

◇[識字運動の担い手たちが語る23]『人生の道を照
らす識字(後編)』 長谷川勝美 編集:岩槻知也

◇明日をかえる法人—新た人権への取り組み 63 ウ
トロ平和祈念館が伝えていくこと—ウトロの人々
の今日までのあゆみ 金秀煥

◇人権教育の実践の現場から92 啖啄同時(そつたく
どうじ)(前編) 道上哲代

◇わたしの視点—メディアの現場から78 問われてい
るマジョリティーヘイトクライムの連鎖を食い止
めるために 旗智広太

◇泰司と元樹の書きたいざんまい12 —葬儀で向き合
う部落差別の現実 川口泰司

◇[連載] 本の道草104 —忘れられた存在を記録す
る 冠野文

◇[連載] 映画を通して考える「もう一つの世界」映
像のなかの在日6 中村一成

◇人権をめぐる動き(2022.9.11~2022.10.10)

■月刊 ヒューマンライツ 417■

(部落解放・人権研究所刊 2022.12.10) 550円

◇[特集]「黒い雨」訴訟—排除された被爆者

・終わらない被爆者の救済—広島「黒い雨」を
めぐる問題とは 矢追健介

・広島「黒い雨」訴訟—これまでのたたかひの
あゆみ 竹森雅泰

・「黒い雨」救済届かぬ長崎—差別される被爆体
験者 樋口岳大

・長崎県からの報告—専門家会議による検証 長崎

県原爆被爆者援護課

◇[言葉と写真で世界をみつめる 20]

「表現の自由」は「他者を傷つける自由」ではな
い—自らの言説・行動から アップデートを試み
る 佐藤慧

◇[明日をかえる法人—新た人権への取り組み64]

社会福祉法人の強みを活かす—包括的支援体制の
深化に向けた協働の「大阪モデル」 叶井泰幸

◇[識字運動の担い手たちが語る 24]

文字を知っている人となつなつた(前編) 松根
洋子さん(新宮識字学級) 編集:菅原智恵美

◇[貧困・子ども・人権 42]

格差の連鎖をなくすために—子どもの可能性を広
げるための社会の責任 肥下彰男

◇[人権教育の実践の現場から 93]

啖啄同時(そつたくどうじ)(後編) 道上哲代

◇[泰司と元樹の書きたいざんまい 13]

「知られたくないこと」は「本当は知ってほしい
こと」 松村元樹

◇[連載] 誰がために腹は鳴る 95 (最終回) 2023

年、人生も連載もリスタートです 社納葉子

◇[連載] 走りながら考える 256 「ビジネスと人権に
関する指導原則」とは? 北口末広

◇[連載] 本の道草 105 「ルールは協力によって成り
立つ」 冠野文

◇[連載] 映画を通して考える「もう一つの世界」映
像のなかの在日⑦ 中村一成

◇人権をめぐる動き (2022.10.11~2022.11.10)

■ひゅーまんらいと 440■

(部落解放・人権政策確立要求京都府実行員会
刊 2022.10.1)

◇ウトロ放火事件判決関連記事

◇京都人権文化講座「第70期・第1回(3/18)講師
人見とも子さん」講演記録

■平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報('20) ■

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館刊 2022.10)

◇施設の概要

◇2020年度活動報告

◇博物館事業記録 他

■日本基督教団部落解放センター通信 28■

(日本基督教団部落解放センター刊 2022.11.21)

- ◇解放の出会いを重ねていく 上野玲奈
- ◇10.25 部落解放全国会議 in 京都プレ集会の報告
「水平社100年と私」講師 山本栄子さん 報告
- ◇水平社宣言100年の年に プレ集会感想 清水和恵
- ◇第24回部落解放ユースセミナー報告『光に導かれて』
- ◇「石川さんは無実だ！」再審を実現しよう

■日本史研究 721■

(日本史研究所刊 2022.9.10) 750円

- ◇[書評] 梅田千尋編『新陰陽道叢書』第三卷 近世
木場貴俊

■花園大学人権教育研究センター報 61■

(花園大学人権教育研究センター刊, 2022.12)

- ◇第1特集 人権教育研究センター30周年記念 人権教育研究センター三十周年に寄せて 横田南嶺／花園大学人権教育センター設立30周年記念座談会 八木晃介・中尾良信・吉永純・梅木真寿郎／部落問題から出発した花大の人権教育・研究 八木晃介／人権教育研究センター 2013年～2022年のあゆみ
- ◇第2特集 第36回花園大学人権週間
- ◇第3特集 フィールドワーク報告 京都・ウトロ
- ◇報告 原作・島崎藤村、映画『破戒』に学ぶ 一先達の願い「よき日の為に」— 梅木真寿郎

■東日本部落解放研究所ニュース 103■

(東日本部落解放研究所刊 2022.11)

- ◇第35回研究・交流会開催(9.4) 大串夏身さんの記念講演を聞いて
- ◇東京の部落解放運動の現状と課題 近藤登志一さん
- ◇同和教育と私—東京の同和教育の歩み— 松浦利貞さんの報告と感想 岩崎貴子
- ◇近世練馬部落史をめぐる諸問題—菊池照夫さんの報告を聞いて

■ヒューマンJournal 242■

(自由同和会中央本部刊 2022.9) 500円

- ◇自民党の各種団体協議会懇談会に出席

◇令和4年度運動方針 (前号からの続き)

■月刊 ヒューマンライツ 414■

(部落解放・人権研究所刊 2022.9.10) 550円

- ◇[特集] 遺伝情報・ゲノム情報と差別
・遺伝情報・ゲノム情報を使う前に行うべきこと 粥川準二
・「遺伝情報・ゲノム情報による不当な差別や社会的不利益の防止」をめぐる最近の動き 青野由利
- ◇[識字運動の担い手たちが語る21]『識字は私の命 私の生きる糧(後編)』浪速読み書き教室 岡山琴絵さん
- ◇[人権教育の実践の現場から90]『ただいま！前編』宮森直樹
- ◇[追悼]『水平社宣言の“熱と光”に共感された武者小路先生の逝去を悼む』友永健三
- ◇一般社団法人部落解放・人権研究所 第11回定時総会・記念講演 紹介
- ◇差別解消に向けたデジタル配信と対面研修の充実を！～人権啓発・人材育成事業のこれから～ 川口泰司
- ◇[書評]板山勝樹著『戦後日本における反差別教育の源流—解放教育思想の形成過程』(明石書店 2022年) 高田一宏
- ◇[泰司と元樹の書きたいざんまい10]「非対称な関係」と「対話の可能」
- ◇[本の道草102] ステレオタイプをなぞらない 冠野文
- ◇人権をめぐる動き(2022.6.11～2022.7.10)

■月刊 ヒューマンライツ 415■

(部落解放・人権研究所刊 2022.11.10) 550円

- ◇「原爆の図」を現在、そして未来につなげるために—原爆の図丸木美術館 岡村幸宣
- ◇[識字運動の担い手たちが語る22]『人生の道を照らす識字 (前編)』長谷川勝美 編集：岩槻知也
- ◇人権教育の実践の現場から91「ただいまー！」(後編) 宮森直樹
- ◇泰司と元樹の書きたいざんまい11「差別をしな

022.12.1) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革61

川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6
(前回の続き) 丹波正史

◇住みよい養正地域を考える会が門川京都市長に
「養正市営住宅解体工事説明会(京都市主催)」に
対する申し入れ

■であい 725■

(全国人権教育研究協議会刊 2022.8.25) 160円

◇2022年度 第73回全国人権・同和教育研究大会討
議課題

- ・第1分科会 人権確立をめざす教育の創造「部落問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決をめざす教育をどう創造しているのか」
- ・第2分科会 自主活動「子どもたちの自主的な活動と学習を、どのように保障していくか」
- ・第3分科会 進路・学力保障「子どもたちの未来を拓く進路・学力保障をどう進めているか」
- ・第4分科会 人権確立をめざすまちづくり～地域の教育力・子ども会活動・啓発活動・学習活動・識字運動・文化創造～「部落問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決をめざすまちづくりをどう進めているか」

◇[人権文化を拓く297] ドキュメンタリー映画『私のはなし 部落のはなし』を制作して― 満若勇咲

◇2022.7.25 全人教「教育課題別研究会～創る・つながる・きり拓く～」関連記事

◇[受・信・送・信] 新作DVD情報 ※問い合わせは大阪人権博物館

- ・『ハンセン病の歴史と回復者の生活(カラー21分)』、『ハンセン病回復として生きる(カラー20分)』 定価10,000円(2枚組)
- ・『牛肉と私たちの暮らし(カラー14分)』 定価5,000円

■であい 726■

(全国人権教育研究協議会刊 2022.8.27) 160円

◇8/4「豊かな人権教育の創造」実践交流会を第16

回島根県人権教育研究大会と兼ねて開催「学校教育部会」概要報告・実践レポート、「社会教育部会」概要報告

◇[人権文化を拓く] 戦う普通の人たち 水野三智

◇[受・信・送・信] 9/10 全同教結成70周年、第74回全国人権・同和教育研究大会、兼第70回兵庫県人権教育研究大会 共同開催実行委員会結成総会開催

◇[公開講座と学習会案内]

- ・部落解放・人権研究所第1研究部門 第39回公開講座
- ・四国に開校した3校の夜間中学から学びあう学習会 (どちらも詳細は催物情報欄)

■であい 727■

(全国人権教育研究協議会刊 2022.10.25) 160円

◇第73回全国人権・同和教育研究大会 奈良大会特集

◇「豊かな人権教育の創造」実践交流会 兼 第16回島根県人権教育研究大会片岡佳美さんの実践レポート掲載

◇2022年度 文部科学省要請文(同和教育を重要な柱とする人権教育の推進に関する要請)

◇[人権文化を拓く] 子どもの権利問題としての教師の多忙化 一何のための「働き方改革」か?― 高橋哲

◇[本の紹介] 人間に光あれ～日本近代史のなかの水平社～ (藤野豊・黒川みどり著/六花出版刊)

■であい 728■

(全国人権教育研究協議会刊, 2022.11) 160円

◇人権文化を拓く「入場資格」論 一食の歴史から考える 藤原辰史

■同朋新聞 781■

(真宗大谷派宗務所刊, 2022.12)

◇御同朋御同行からの問いかけ ～是旃陀羅の課題～ 13 解放運動推進本部

■栃木県連ニュース 4■

(部落解放同盟栃木県連合会刊 2022.7.25) 160円

◇狭山裁判関連記事

◇映画『破戒』12月から自主上映開始

■月刊 地域と人権 464■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.12.5)

◇解放運動の担い手たち 尾川昌法

■地域と人権 1236■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.9.15) 147円

◇[福岡] 7/17 人権連福岡県連 第19回定期大会で憲法改悪阻止と「隣保館利用者部落差別調査」を採択

◇[岡山] 岡山県地域人権問題研究集会『いまなぜ地域人権か?』

◇[群馬] 7/17 第18回

◇[読後感想] 木村京太郎著『復刻 水平社運動の思い出』—全国水平社創立100周年記念出版— 平井雅希

◇公益社団法人部落問題研究所 2021年度臨時総会 (4/24)関連記事

◇映画『破戒』を見て—「丑松」とその後

■地域と人権 1237■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.10.15) 147円

◇[山口]山口県地域人権運動連合会第17回大会(7/24)関連記事

◇[京都]京都地域人権運動連合会第17回大会(8/6)関連記事

◇[福岡]第10回北九州人権問題公開講座『障害者だけが独立自尊 アグレッシブに社会参加したい』(9/4)報告 植山光朗

◇[読後感想] 木村京太郎著『復刻 水平社運動の思い出』—全国水平社創立100周年記念出版— 妹尾善弘

■地域と人権 京都 868■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.9.1) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 55 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史 6 (前回の続き) 丹波正志

■地域と人権 京都 869■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2

022.9.15) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 56 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6 (前回の続き) 丹波正志

■地域と人権 京都 870■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.10.1) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 57 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6 (前回の続き) 丹波正志

■地域と人権 京都 871■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.10.15) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革58 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6 (前回の続き) 丹波正志

◇9/10 京都市職員連合部落問題学習協議会関連記事

■地域と人権 京都 872■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.11.1) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革59 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6 (前回の続き) 丹波正志

■地域と人権 京都 873■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.11.15) 150円

◇京都市人権連第2回執行委員会 各地の「まちづくり運動」を交流

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革60 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史6 (前回の続き) 丹波正志

■地域と人権 京都 874■

(京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2

『是旃陀羅』問題への応答と真宗の学び 藤元雅文

- ◇[ハンセン病はいま 296]「ハンセン病問題とコロナ差別」 稲葉亮道

■真宗 1424■

(真宗大谷派宗務所刊 2022.11.1) 250円

- ◇[解放の共学] —「是旃陀羅」問題に聞く— 14
部落解放運動と「旃陀羅」差別 (上) 近藤祐昭
◇[ハンセン病はいま 297]「今、その人の声を聞く上」 長井誓子

■真宗 1425■

(真宗大谷派宗務所刊, 2022.12) 250円

- ◇解放の共学 —「是旃陀羅」問題に聞く— 15
部落解放運動と「旃陀羅」差別 (下) 近藤祐昭
◇ハンセン病はいま 298 今、その人の声を聞く (下) 長井誓子

■信州農村開発史研究所報 160■

(信州農村開発史研究所刊 2022.9.1)

- ◇牢番は命にかかわる危険な役目 斎藤洋一
◇1957年頃の小諸市民の部落 3

■人民新聞 1795■

(人民新聞社刊 2022.12.20) 200円

- ◇消えゆく戦争遺跡 (大阪府高槻市 地下軍事工場＝タチソ見学会) かわずみかずみ

■スティグマ 314■

(千葉県人権センター刊 2022.9.10) 500円

- ◇[連載] 差別とは何か、偏見とは何か14 福岡安則

■スティグマ 315■

(千葉県人権センター刊 2022.10.10) 500円

- ◇[特集]「目の前に当事者がいるという意識の欠落」 友兼善治
1. 「一休ばなし」で気づけなかったこと
 2. 2022年2月の学研国語追試問題から
 3. 今年の全人教レポート その1
 4. 今年の全人教レポート その2
 5. 職場新聞2022年2月9日号
 6. 職場新聞2022年3月24日号
 7. 福田村事件から考える

■スティグマ 316■

(千葉県人権センター刊 2022.11.10) 500円

- ◇[特集1]「災害や命が危うい時に」 友兼善治
◇[特集2]「被差別部落の歴史 —千葉県を中心に—」 坂井康人
◇[連載] 共に育つ教育「普通級入学のための就学相談会」

■スティグマ 317■

(千葉県人権センター刊 2022.12.10) 500円

- ◇[連載] 差別とは何か、偏見とは何か15 「強制隔離政策89年の負の遺産」 福岡安則
◇[連載] 共に育つ教育「エレベーター設置の要望書 2022」 佐藤陽一

■全国隣保館連絡協議会情報誌 90■

(全国隣保館連絡協議会刊 2022.11.30) 500円

- ◇隣保館学習会の活動を通じて 愛媛県今治市菊間町隣保館
◇鳥取県隣保館連絡協議会の取り組み紹介
◇奈良市北人権文化センターの歴史紹介
◇熊本県嘉島町文化センターの紹介

■月刊 地域と人権 461■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.9.5) 147円

- ◇表現の自由をめぐる市民文化と民主主義 志田陽子
◇埼玉県部落差別の解消の推進に関する条例

■月刊 地域と人権 462■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.10.5) 147円

- ◇全国水平社創立100周年記念事業 実行委員会記者会見(2.22)関連記事
◇沖縄料理で地域に貢献 愛知人県連島津支部「お寺café・結人(ゆいんちゅ) 小山初子

■月刊 地域と人権 463■

(全国地域人権運動総連合刊 2022.11.5) 147円

- ◇[まんが] 全国水平社創立100周年記念動画
第1話 100年前に創立した水平社
第2話 日本国憲法後の差別
第3話 劣悪な生活環境の改善と差別解消の運動
第4話 結婚の壁はどう変わっていったか
第5話 平和な社会の実現をめざして

みと継承のとりくみ 今井典夫

◇[新連載] 人はみな人と接して 人となる(2)

山田 稔

◇[本棚]「種蒔く人」顕彰会編

『種蒔く人』の射程——〇〇年の時空を超えて——内藤 由直

◇[本棚] 飯田直樹著『近代大阪の福祉構造と展開—
方面委員制度と警察社会事業—』大森実

◇[文芸の散歩道] 窪島誠一郎『流木記—ある美術館
主の80年』(白水社)・・・松井 活

◇第60回部落問題研究者全国集会要項(10/22・23)

■人権と部落問題 965■

(部落問題研究所刊 2022.11.1) 660円

◇[特集] 高齢者は大切にされているか

・日本の高齢者福祉施策の問題点—欧米との比較から— 唐鎌直義

・「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」から
見えてくる高齢者の現在 久保田直生

・家族介護への支援の課題—男性介護者とヤング
ケアラーを手がかりとして— 斎藤真緒

・高齢者のくらしと年金問題 加納忠

・「NOP法人おひとりさま」の身元保証・生活
支援 丹波正史

・笑顔と希望を拡げる高齢者支援の活動 矢頭正
明

◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第3章 教師がつ
づる八鹿高校の教育14 八鹿高校の教育実践に学
ぶ—生徒自治会活動を中心に 若林正昭

◇[新連載] 人はみな人と接して 人となる3 山田稔

◇[本棚] 牧野広義著『人間の尊厳と個人の尊重』亀
山純生

◇[文芸の散歩道] 司馬遼太郎作『竜馬がゆく』の賤
称語使用問題—糾弾に一人で 歴史小説家の矜持—
桑原律

■人権と部落問題 966■

(部落問題研究所刊 2022.12.1) 660円

◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第3章 教師がつ
づる八鹿高校の教育 15 事件の9年後に八鹿高校に

赴任して 田中久典

◇[現地報告]人権施策の到達点と新たな課題への取
り組み(その2)—三重県松坂市— 久松倫生

◇[本棚] 東上高志著『日本教育の青春と部落問題』
(部落問題研究所/A5版/433頁/5,500円) 紹介:
大塚茂樹

◇人はみな人と接して 人となる—同和教育と部落
問題へのとりくみ— 山田稔

■人権なら 143■

(NPOなら人権情報センター刊 2022.11.1)

◇[本の紹介]『天王寺・文の里夜間中学の存続—
—生きる権利と学ぶ権利がすべてに優先する』
(夜間中学卒業者の会編/解放出版社刊/1,800円)

◇川合町人権学習講座「水国争闘」フィールドワー
ク報告

◇部落問題全国交流会事務局会議「橋のない川(第
2部)」鑑賞 糾弾要綱を論議

◇第49回奈良人権・部落解放研究集会(10/1)実施

■人権なら 144■

(NPOなら人権情報センター刊 2022.12.1)

◇三宅町人権学習講座(11.22) 講師 岡本工介さん報
告

◇同和問題関係史料センター歴史講座(11.8) フィ
ールドワーク「吉野川と街道のまち大淀町」報告

◇反差別・人権交流センタ「絆」(11.19) フィ
ールドワーク「水国争闘事件の現場を歩く」報告

■季刊 人権問題 409■

(兵庫人権問題研究所刊 2022.10.31) 1,000円

◇[特集1] 様々な視点で憲法を考えよう

◇[特集2] 貧困な教育行政の打破を求める

・現場は限界間近! 「教員未配置」の実態と原因、
そして是正の道筋 永峰博義

◇[特集3] 全国水平社創立100周年記念

・全国水平社運動の教訓、地域人権運動の現状と
課題が明らかになった 村上保

■真宗 1423■

(真宗大谷派宗務所刊 2022.10.1) 250円

◇[解放の共学]—「是旃陀羅」問題に聞く— 13

100円

- ◇全国各地で取り組まれた10月行動報告
- ◇狭山現地調査報告集会(10.30) 講演「狭山の部落史1」 本田豊

■試行社通信 431■

(八木晃介刊 2022.9.10)

- ◇「水平社100年と朝田善之助」を考える

■人権と社会 クリップ・ライブラリー 419■

(NCL刊 2022.9.15) 1,400円

- ◇[じんけん北から南から] 「お母さんの様子がおかしい」 独り入信 消えた6000万円 〈毎日新聞(大阪) 2022.8.4〉

- ◇[記者28歳] 私は部落から逃げてきた 〈西日本新聞〉

- (1) 「部落の子なのに賢いね」 〈2022.4.19〉
 - (2) 「恋人には言ってるで」 〈2022.4.20〉
 - (3) 「祖母と母 すれ違う思い」 〈2022.4.21〉
 - (4) 「故郷に誇りを持って」 〈2022.4.22〉
 - (5) 「あなたに託したい」 〈2022.4.23〉
 - (6) 「言葉にできない」 衝撃 〈2022.4.24〉
 - (7) 「当事者 消費しないで」 〈2022.4.25〉
 - (8) 「普通」の場所で暮らして 〈2022.4.26〉
- (読者の声) 「新時代へ希望をつなぐ声」 〈2022.4.26〉

「決意、葛藤… 書いてよかった」 〈2022.5.6〉

■人権と社会 クリップ・ライブラリー 420■

(NCL刊 2022.10.15) 1,400円

- ◇「水平社宣言」 部落解放同盟前委員長組坂繁之さんインタビュー 〈朝日新聞 2022.9.3〉
- ◇[戸籍不正を追う 上] 闇ビジネス 一通十数万円 〈西日本新聞 2022.7.29〉
- ◇[戸籍不正を追う 中] 行政書士 欠けた規範意識 〈西日本新聞 2022.7.30〉
- ◇[戸籍不正を追う 下] 人権意識の向上不可欠 〈西日本新聞 2022.7.31〉

■人権と部落問題 963■

(部落問題研究所刊 2022.9.1) 660円

- ◇[特集] 部落問題と表現の自由—閲覧制限をめぐる

て—

- ・和歌山県立図書館の閲覧制限をめぐる経過と問題点 藤本清二郎
- ・和歌山県立図書館における閲覧制—法的问题点は何か— 上野正紀
- ・インターネット上の「部落」情報をめぐる削除などの対応について 新井直樹
- ・「全国部落調査」復刻版裁判判決をどう読み解くのか 杉島幸生

- ◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第3章 教師がつづる八鹿高校の教育 八鹿高校と私

- ◇[連載] 人はみな人と接して 人となる 1—同和教育と部落問題へのとりくみ— 山田稔

- ◇[読後感想] 木村京太郎著 『復刻 水平社運動の思い出』 妹尾善弘

- ◇[文芸の散歩道] 映画『私のはなし 部落のはなし』—取り急ぎ一筆—

- ◇公益社団法人部落問題研究所2022年度定時総会の報告

- ◇人権と部落問題をめぐる主な動き (2021.1.4~2022.3) 井手幸喜

■人権と部落問題 964■

(部落問題研究所刊 2022.10.1) 660円

- ◇[特集] 子どもの権利保障と保育制度の今
 - ・戦後日本の保育の歩みと新自由主義下の保育 藤井伸生
 - ・子どもおとなも大事にされる保育園に 澤井憲子
 - ・制度変更に伴う保育園運営の現状 尾崎望
 - ・コロナ禍が保育園の保護者にもたらしたもの—市保連の活動から見えたこと— 藤井豊
 - ・子どもの療育をめぐる状況と課題 池添 素
- ◇[論説] 生活保護裁判—熊本地裁判決の意義— 阿部広美

- ◇世界のくらしと文化 中国雲南省のペー族村③ 植物染料の復興をめぐるせめぎあい 李南瑾

- ◇[随想] 戦火のウクライナを取材して 志葉玲

- ◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第三章 教師がつづる八鹿高校の教育13 八鹿高校の民主教育の歩

山下真澄

■かけはし 4■

(香川県隣保館連絡協議会刊 2022.10)

◇隣保館ソーシャルワーカーは、かくして生まれた
3 宮島喜輝

◇[隣保館紹介] 高松市国分寺文化センター

◇[100円モーニングの紹介] 小豆島町草壁会館

■語る・かたる・トーク 331■

(横浜国際人権センター刊 2022.9.20) 550円

◇私のひとりごと 杉とう・じゅんすけ

◇国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブラ
ンチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュ
ース 「1990年にスタートした全体学習会(学年5
クラスで語り合う人権学習)」 森口健司

◇[部落史学び直し 問い直しのススメ18] 小学校教
科書における部落問題の記述 外川正明

■語る・かたる・トーク 332■

(横浜国際人権センター刊 2022.10.20) 550円

◇私のひとりごと 杉とう・じゅんすけ

◇国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブラ
ンチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュー
ス つづき 「1990年にスタートした全体学習会
(学年5クラスで語り合う人権学習)」 森口健司

◇[部落史学び直し 問い直しのススメ19] 小学校教
科書における部落問題の記述のいま 外川正明

■語る・かたる・トーク 333■

(横浜国際人権センター刊, 2022.11) 550円

◇部落史 学び直し 問い直しのススメ 20 私案から試
案、そして『部落史に学ぶ』へ 外川正明

■カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター たより 63■

(カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センタ
ー事務局刊 2022.10)

◇水平社宣言100年・救済の客体から解放の主体へ
大塚喜直

◇人の世に熱あれ、人間に光あれ 水平社100周年
シンポジウムに参加して 長崎壮

■カトリック部落差別人権委員会ニュース 200■

(日本カトリック部落差別人権委員会事務局刊
2022.9.)

◇部落差別人権委員会の歩み

◇[カトリック部落解放運動こぼれ話] 第1話 山上卓
樹伝誕生秘話 太田勝

◇[これまでの歩みをふりかえって①] 全国水平社結
成 一宣言の衝撃をめぐって 安田耕一

◇水平社宣言100年シンポジウム関連記事

◇オンライン署名活動(日本で生まれ育った、在留
資格がなく強制送還の危機にさらされている外国
ルーツの子供たちのために、日本政府に在留特別
今日を求める署名活動)開始

■カトリック部落差別人権委員会ニュース 201■

(日本カトリック部落差別人権委員会事務局刊 202
2.11)

◇教育という人権 マグダレナ三千代

◇石川一雄さんのメッセージ

■GLOBE(グローブ) 111■

(世界人権問題研究センター刊 2022.10)

◇[研究報告] 同和問題解決のため実践研究の新展開
へ向けて 一隣保事業等の比較 中川理季

■在日朝鮮人史研究 52■

(在日朝鮮人運動史研究会編 緑蔭書房刊 2022.10.3
0) 2,400円+税

◇日本植民地下の戦時総動員政策と忠清道地域の民
衆9 13回目の韓国訪問(調査)の報告 龍田光司

◇山陰地域における朝鮮人「密航」取締りの諸相
西村芳将

◇[資料紹介] 中村三笑「内地に於ける朝鮮人」1~3
回 樋口雄一

■狭山大運動 3■

(狭山事件の再審を実現する大運動2022.9.10) 100
円

◇8/29 狭山弁護団が東京高裁に新証拠と事実取調請
求書提出

◇8/24 東京高裁・高検要請行動実施

■狭山大運動 5■

(狭山事件の再審を実現する大運動刊 2022.11.10)

◇狭山事件・事実調べの実現に向けて県内3ヶ所で緊急街宣

◇10/15 全国水平社創立100周年記念 兵庫県連教宣部連続学習会報告

◇10/10 人権教育ひょうごスタディーツアー報告

◇「部落解放・人権政策確立要求」兵庫県実行委員会第25回総会関連記事

◇部落解放兵庫県民共闘会議と自治労兵庫県本部が神戸市にモニタリング事業の充実など求める

◇部落解放第19回全国識字経験交流会(10/1・2 兵庫県姫路市) 報告

◇人権啓発研究兵庫県集会(10/23)関連記事

■解放新聞兵庫版 900■

(解放新聞兵庫支局刊 2022.12.5)

◇[主張]支部長研修会に結集しよう

◇「狭山事件の再審を求める市民集会」(10.28)報告

◇「2022部落解放政経セミナー」(11.16)報告

◇男女平等社会をめざして兵庫県連女性部が奈良県連女性部と交流会(11.19)

◇「フォーラム平和・人権・環境・ひょうご」学習会(10.29)報告

◇第79期全国ブロック別中央解放学校(11.20)報告

◇部落解放研究第55回全国集会(11/15・16)報告

■解放新聞広島版 2435■

(解放新聞社広島支局刊 2022.9.15)

◇[主張] 男女平等社会の実現を

◇部落解放第54回全国高校生集会・第66回全国青年集会(8/20、21)関連記事

◇8/3「全国部落調査」復刻版出版事件 第1回口頭弁論報告集会開催

◇8/29 狭山弁護団が東京高裁に再審請求補充書 事実取調請求書提出

◇9/1 狭山差別裁判 第51回三者協議、弁護団と石川一雄さん記者会見関連記事

◇第65回全国女性集会に参加して 第7分科会「女性の生活・労働・福祉・まちづくり運動の課題」宮原洋子

■解放新聞広島版 2436■

(解放新聞社広島支局刊 2022.9.25)

◇8/28 2022部落解放・人権政策の確立を求める南部ブロック集会報告

◇狭山事件の再審開始を求める福山集会報告

■解放新聞広島版 2438■

(解放新聞社広島支局刊 2022.10.15)

◇[主張] 核は必要悪ではなく絶対悪である

◇ヒロシマ人権財団が「支部や町脇の部落解放運動の取組から学ぶ研究会(9/17)」を開催

◇部落解放・人権政策の確立を求める東部ブロック集会(9/11)関連記事

◇県連執行委員会で狭山事件の事実取り調べを求める緊急署名の取り組みの強化を確認

◇狭山事件の再審開始を求める福山集会後援会要旨「冤罪 狭山事件59年 一第3次再審闘争の現状3 安田聡

◇第66回全国青年集会に参加して 服部拓孝

■解放新聞広島版 2439■

(解放新聞社広島支局刊 2022.10.25)

◇[主張]東京高裁は鑑定人尋問の実施を

◇9/28 狭山事件鑑定人尋問実現・20万人署名・全国一行動実施関連記事

◇狭山事件の再審開始を求める福山集会講演要旨

◇福山市協第65回定期大会報告

■解放新聞広島版 2440■

(解放新聞社広島支局刊 2022.11.5)

◇[主張] 石川さんは無実だ！事実調べを求める闘いを強化しよう

◇2022年度部落解放・人権政策の確立を求める第51回広島県民集会(1/2)関連記事

◇狭山事件再審要求集会「石川一雄さんメッセージ」

■解放新聞広島版 2443■

(解放新聞社広島支局刊 2022.12.5)

◇[主張] 人権と平和をもとめて

◇狭山事件の再審を求める市民集会(10/28)報告

◇11・3ヒロシマ憲法集会報告

◇県連連続人権講座・世界人権宣言研実行委合同学習会講演要旨『世界と日本の危険な状況』(中)

第1回口頭弁論関連記事

◇狭山劇『闇にただよう顔』を上演 埼玉県人権教育研究競技会 岩崎正芳

◇8/24 都連 東京法務局に確信犯の差別行為をやめさせるため「説示」以上の対策を求める要望書を提出

◇東京平和運動センターが狭山現地調査

◇9/4 第65回関東女性集会を3年ぶりに開催

◇部落解放第54回全国高校生集会・第66回全国青年集会(8.20・21)開催

◇10/16 皮革と油脂のまちの魅力に会うイベント「きねがわスタンプラリー2022」開催

■解放新聞東京版 1020■

(解放新聞東京支局刊 2022.11.1) 110円

◇狭山事件の再審を求める東京集会関連記事

◇人権ネットワーク・東京、東京都議会立憲民主党・都民ファーストの会に人権政策確立に向けた要請行動実施

◇葛飾支部・荒川支部・品川支部定期大会記事

◇[地域共闘活動紹介]「部落差別撤廃への共鳴と共感は連帯へ、狭山・人権・葛飾ネットの取り組み」松島幸洋

◇狭山事件「事実取調請求書の解説と、今後の流れについて1」

■解放新聞奈良県版 1175■

(解放新聞社奈良支局刊 2022.10.10) 50円

◇10/1 「水平社創立100周年『日常を取り戻す』—戦争・コロナ禍、時代の転換点にたって—」をテーマに第49回奈良県人権・部落解放研究会開催

◇奈良県連第64期第2回県委員会(9/17)関連記事

◇部落解放第54回全国高校生集会・第66回全国青年集会(8/20、21)関連記事

◇拡大全国狭山活動者会議・狭山住民の会全国交流会(9/9)関連記事

■解放新聞奈良県版 1176■

(解放新聞社奈良支局刊 2022.10.25) 50円

◇10/1 「水平社創立100周年『日常を取り戻す』—戦争・コロナ禍、時代の転換点にたって—」をテ

ーマに第49回奈良県人権・部落解放研究会報告

◇9/8 奈良労働局・奈良県共催の「企業主人権・同和問題研修会」、「公正採用選考研修会」開催

◇10/28 狭山市民集会 石川一雄さんメッセージ

■解放新聞奈良県版 1178■

(解放新聞社奈良支局刊 2022.11.25) 50円

◇東京 狭山市民集会(10.31)報告

◇曙支部「山内水平社創立100周年の集い」(10.29)

◇県連青年部「平和と反差別のための音楽フェスタ『つなぐ』」(10.9)報告

■解放新聞兵庫版 897■

(解放新聞社兵庫支局刊 2022.9.5)

◇[主張]「全国部落調査」復刻版裁判控訴審勝利へ

◇7/31 兵庫県連、部落解放兵庫県民共闘会議が「狭山事件の再審を求める県民のつどい」開催

◇8/6 第27回兵庫県連女性部大会・部落解放第60回兵庫県女性集会を3年ぶりに開催

◇兵庫県連、県民共闘、自治労合同で県職員の研修について申し入れ

◇部落解放第54回全国高校生集会・第66回全国青年集会(8.20・21)開催

◇兵庫の彼方此方(あちこち)から18 人との出会いの中で

■解放新聞兵庫版 898■

(解放新聞社兵庫支局刊 2022.10.5)

◇[主張] 東京高裁は鑑定人尋問をおこなえ

◇9/18 兵庫県連青年部が水平社博物館で研修

◇兵庫県連と県民共闘と共に「公正採用のとりくみ強化」県などへを要望

◇9/11 兵庫県部落出身教員の会(礎友会)と兵庫県連が「2022年解放講座」を開催

◇兵庫の彼方此方(あちこち)から19 古文書に息づく私の村

■解放新聞兵庫版 899■

(解放新聞社兵庫支局刊 2022.11.5)

◇[主張] 今こそ人権尊重の日本国憲法を堅持しよう

◇9/28 兵庫県連「狭山事件再審に向けた全国一斉要請集会」開催

- ◇「新たな自主夜間学校が産声 賛同者が集い京都で創立」新夜間学校関連記事
- ◇隣保館相談事業の拡充を求めて、厚生労働省とのオンラインによる交渉実施(10/13)
- ◇こどもの居場所づくりに取り組む「NPOあかしやふれあいネットワーク(西三条支部が中心になって設立)」が主催する「あかしや輪い和い雀クラブ」活動紹介
- ◇部落解放人材養成講座開講 友永健三さんを講師に全7回開催予定
- ◇人権文化講座『在日一世の思いを受け継ぐ〜高麗美術館からのメッセージ〜』報告記事
- ◇府内各地の狭山事情宣行動報告(京都市協・北部ブロック・山城地協・南丹地協)
- 解放新聞京都版 1244■
(解放新聞社京都支局刊, 2022.12.1) : 70円
- ◇「京都の部落解放運動史」を解説 全国部落史研究大会で報告
- 解放新聞京都版 1245■
(解放新聞社京都支局刊 2022.12.15) 70円
- ◇神奈川人権啓発センターが投稿している「部落探訪」190本をYouTubeから削除(11/30)関連記事
- ◇田中支部創立100周年集会(11/18)報告
- ◇第10回ミルキーウェイ人権福祉フェスティバル(1.12)報告
- ◇第150回朝鮮学校の「高校無償化」「幼保無償化」適用を求める火曜アクションin京都(11.15)報告
- ◇第34回k y oあけぼのフェスタ(11.22)でSDGsを体験
- 解放新聞京都版 号外■
(解放新聞社京都支局刊 2022.10.23)
- ◇狭山裁判再審要求関連特集
- 解放新聞滋賀版 2440■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.9.5)
- ◇8/3「全国部落調査」復刻版出版事件裁判控訴審第1回口頭弁論関連記事
- ◇8/4 インターネット人権マスター講座(2)記事
- 解放新聞滋賀版 2444■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.10.15)
- ◇9/27 連合滋賀、部落解放滋賀県民会議に対して、狭山事件の再審実現に向けた集会で署名呼びかけ
- 解放新聞滋賀版 2445■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.10.25)
- ◇7/2 部落解放同盟滋賀県連合会第75回定期大会関連記事
- ◇9月の「同和問題啓発強調月間」の取組報告
- 解放新聞滋賀版 2447■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.11.15)
- ◇狭山事件の再審を求める市民集会(10/28・東京)関連記事
- 解放新聞滋賀版 2448■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.11.25)
- ◇部落解放・人権政策確立要求滋賀県実行委員会がウトロ平和祈念館やウトロ地区のフィールドワークを実施
- 解放新聞滋賀版 2449■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.12.5)
- ◇部落解放研究第55回全国集会(11/15・16)報告
- 解放新聞滋賀版 2450■
(部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.12.15)
- ◇[主張] 9/21 狭山事件の再審を求める東京集会関連記事
- ◇アイヌ問題についてアイヌ文化と差別の現実から学ぶ部落解放・人権政策確立要求滋賀県実行委員会スタディーツアー(11.1~3) 報告
- ◇神奈川人権啓発センターが投稿している『部落探訪』YouTubeから削除(11.30)関連記事
- 解放新聞東京版 1018■
(解放新聞東京支局刊 2022.9.1) 110円
- ◇8/3「全国部落調査」復刻版出版事件裁判控訴審第1回口頭弁論関連記事
- ◇部落解放・人権政策確立要求東京実行委員会2022年総会関連記事
- 解放新聞東京版 1019■
(解放新聞東京支局刊 2022.10.1) 110円
- ◇8/3「全国部落調査」復刻版出版事件裁判控訴審

関連記事

- ◇安倍元総理の「国葬」関連記事
- ◇[今月の一冊]『反体罰宣言 日本体育大学が超本気で取り組んだ命の授業』南部さおり著 / 春陽堂書店
- ◇2022年度教育懇談会(7.13)「同和教育の普遍化と公立学校が果たす役割～子どもたちの確かな学力と社会性を育む教育実践を考える～『第4回 しんどい子どもたちを取り巻く状況3 ～教職員の働き方改革～』」講師:山田小百合さん 報告

■解放新聞改進黨 555■

(部落解放同盟改進黨支部刊 2022.10.20)

- ◇リベレーションフェスタ2022(9/25)報告記事
- ◇2022年度教育懇談会「同和教育の普遍化と公立学校が果たす役割～子どもたちの確かな学力と豊かな社会性を育む教育実践を考える～『第5回 しんどい子どもたちを取り巻く状況4 ～課外活動 小学校～』」講師:野村達哉さん 報告

■解放新聞改進黨 556■

(部落解放同盟改進黨支部刊, 2022.11)

- ◇2022年度教育懇談会「同和教育の普遍化と公立学校が果たす役割～子どもたちの確かな学力と豊かな社会性を育む教育実践を考える～『第6回 しんどい子どもたちを取り巻く状況5 ～課外活動 中学校～』」森本康裕さん

■解放新聞京都版 1239■

(解放新聞社京都支局刊 2022.9.15)

- ◇8/27 男女平等社会の実現を求めて「第49回京都府女性集会」を開催
- ◇8/20・21 全国の仲間と課題解決をめざして「第54回全国高校生集会・第66回青年集会」開催
- ◇8/9 部落解放京都市協議会定期総会開催 木下松二新議長を選出
- ◇8/30 ウトロ ヘイトクライム裁判 被害に懲役4年の実刑判決

■解放新聞京都版 1241■

(解放新聞社京都支局刊 2022.10.15)

- ◇京都府連 京都府知事や市町村長らに「国葬」反対

を申し入れ

- ◇9/25 梅小路公園で3年ぶり、31回目の「リベレーションフェスタ2022」開催
- ◇8/9 部落解放研究第55回全国集会案内
- ◇8/9 部落解放第25回京都府人権・解放保育研究集会実行委員会関係記事
- ◇部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会関連記事
- ◇9/24 ヘイトスピーチ・ヘイトクライムをなくすための集いin京都を開催
- ◇第71期京都人権文化講座始まる 第1回講座 テーマ「私は、いかにして映画『破戒』をつくることができたか」9/16に開催

■解放新聞京都版 1242■

(解放新聞社京都支局刊 2022.11.1)

- ◇10/17 京都府連女性部が狭山情宣行動実施 市民に「石川さん無実」を訴える
- ◇第69期第2回府連委員会で、狭山緊急署名を京都では一万筆の達成をめざして各地域で情宣活動と署名運動の実施を決定
- ◇部落解放第19回全国識字経験交流会(10/1・2 兵庫県姫路市) 報告
- ◇平井府議(府連書記長)の府会質問関連記事
- ◇NPO東三条希望の会 玄々齋精中について学ぶ講演会(10/16)関連記事
- ◇第69期府連解放学校(10/8)関連記事
- ◇部落解放中央共闘会議(10/4)関連記事
- ◇第44回部落解放連続講座報告

■解放新聞京都版 1243■

(解放新聞社京都支局刊 2022.11.15)

- ◇狭山事件の再審を求める市民集会(10/28・東京) 関連記事
- ◇行政書士戸籍等不正請求事件 府内12市の告知状況
- ◇2022年度部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会(10/28・東京)関連記事
- ◇10/21 京都府連北ブロック 石川さんの無罪を訴える情宣活動を東舞鶴駅前で開催 (第27回ブロック会議報告)

- (部落解放同盟愛知県連合会刊 2022.9.1)
- ◇部落解放愛知県共闘会議「部落差別解消、人権行政を求める愛知県交渉」関連記事
- 解放新聞愛知版 513■
- (部落解放同盟愛知県連合会刊 2022.10.1)
- ◇部落解放同盟愛知県共闘会議 自治体交渉報告
- 解放新聞茨城版 387■
- (部落解放同盟茨城県連合会刊 2022.9.15) 150円
- ◇土浦児童クラブ支援員による差別事件関連記事
- ◇土浦市部落差別事件検証委員会の報告書(抜粋)
- ◇茨城の部落問題(近代編)第5回「全国部落調査」
—筑波山は何を視ていた— 本田豊
- 解放新聞大阪版 2291■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.10.5)
- ◇9/5 大阪府連と大阪市との政策懇談会開催
- ◇9/16 第69期第1回府連委員会関連記事
- ◇9/10 第8回識字・日本語学習研究集会パート
ボランティア意識調査からみえてくる未来開催
- 解放新聞大阪版 2292■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.10.15)
- ◇府連が府議会各会派に、インターネット上の人権侵害に対する実効性のある施策を求める要請行動実施
- ◇[水平時評] 映画『破戒』の主人公、丑松の描かれ方から見る時代の変化 赤井隆史
- ◇狭山事件の再審実現に向け オルグ、集会で署名呼びかけ
- ◇石川一雄さんメッセージ
- 解放新聞大阪版 2293■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.10.25)
- ◇狭山事件の鑑定人尋問・再審実現に向けて全力で取り組もう
- ◇府議会でインターネット上の人権侵害防止に向けた取り組みへの質問相次ぐ。
- ◇[水平時評] 新しい時代に届け 狭山ネット広告の試み 赤井隆史
- 解放新聞大阪版 2294■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.11.5)
- ◇狭山事件・事実調べの実現に向けて府内4ヶ所で街宣行動
- ◇狭山事件の再審を求める市民の会がウェブサイトを開設し「11人の鑑定人による新証拠」をわかりやすく解説、ネット署名協力を呼び掛ける
- ◇奈良県田原本町に「同和地区かどうか」を大阪の建設会社社員が問い合わせる事件(2/28)記事
- ◇昨年8月に発覚の「戸籍不正取得事件」を踏まえて大阪府連が「土業」8団体に質問状を送り意見交換
- ◇インターネット上の誹謗中傷などの匿名加害者を特定しやすくする「改正プロバイダ責任制限法」が10/1に施行
- 解放新聞大阪版 2295■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.11.15)
- ◇狭山事件の再審を求める市民集会(10/28・東京)関連記事
- ◇[水平時評] 危険なマイナカードの義務化 個人情報一元管理への布石 赤井隆史
- ◇氾濫するネット差別に対し包括的な人権救済制度確立を求め 2022年部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会(10/28 東京)開催
- 解放新聞大阪版 2297■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.12.5)
- ◇府連女性部水平社現地研修(11/19)報告
- ◇部落解放研究第55回全国集会(11/15・16)報告
- 解放新聞大阪版 2298■
- (解放新聞社大阪支局刊 2022.12.15)
- ◇神奈川人権啓発センター(鳥取ループ・示現社)が投稿している『部落探訪』をYouTubeから削除(11.30)関連記事
- ◇[水平時評] 部落のマイナスイメージをどう転換させるのか—中央解放学校の議論から— 赤井隆史
- ◇「だい33かいよみかきこうりゅうかい」報告
- ◇フジ住宅ヘイトハラスメント裁判関連記事
- 解放新聞改進黨 554■
- (部落解放同盟改進黨支部刊 2022.9.20)
- ◇2022年部落解放同盟京都市協議会定期総会(8/9)

◇[本の紹介]『殉義の星と輝かん 百年生きる解放歌と柴田啓蔵』森山沾一・和智俊幸・横田司・坂田美穂著/人権研究所/1,600円 紹介 善野娘

■解放新聞 3043■

(解放新聞社刊 2022.10.25) 115円

- ◇[主張]「部落解放同盟 一新たなる決意」の具体化
- ◇第79期第1回全国識字経験交流集会(10/1・2 姫路市)報告記事
- ◇ドキュメンタリー映画『オレの記念日』紹介
- ◇石川一雄さんのメッセージ

■解放新聞 3044■

(解放新聞社刊 2022.11.5) 115円

- ◇[主張] 全国各地の実践を持ち寄り、鳥取全研を成功させよう〈部落解放研究第55回全国集会 開催要綱 紹介〉
- ◇全国女性運動部長会議(10/5)で今年度第66回全国女性集会の総括、来年度の方針などを協議
- ◇[寄稿]「大阪茨木・コリア国際学園放火事件」中村一成
- ◇部落解放第19回全国識字経験交流会(10/1・2 兵庫県姫路市) 報告
- ◇[本の紹介]『ウトロここで生き、ここで死ぬ』中村一成著/三一書房/2,800円+税 紹介 具良鉦

■解放新聞 3045■

(解放新聞社刊 2022.11.15) 115円

- ◇2022年度部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会(10/28・東京)関連記事
- ◇識字学級などに係るボランティアの人権意識調査をテーマに第8回識字・日本語学習研究集会(9/10 大阪)開催
- ◇毎日新聞の「新平民」という差別呼称を使用した記事(3/7「女性解放とジェンダー平等」の企画特集)関連記事
- ◇衆院法務委員会で「ネット上の差別に粘り強く取り組む」と葉梨法務大臣が回答
- ◇狭山闘争の勝利に向けた各地の集会・情宣行動の紹介(鳥取・熊本・北陸各県 他)

■解放新聞 3046■

(解放新聞社刊, 2022.11.25) 115円

- ◇本の紹介 夜間中学卒業者の会編『天王寺・文の里 夜間中学の存続を 生きる権利と学ぶ権利がすべてに優先する』添田祥史

■解放新聞 3047■

(解放新聞社刊 2022.12.5) 115円

- ◇[主張] 解放保育・人権保育運動のさらなる進化と創造をすすめよう
- ◇狭山事件第52回三者協議関連記事
- ◇部落解放研究第55回全国集会(11/15・16)報告
- ◇第79期全国ブロック別中央解放学校(11.20)報告
- ◇「だい33かいよみかきこうりゅうかい」から11 鶴見橋よみかきありがとうの会 豊永正男さん

■解放新聞 3048■

(解放新聞社刊 2022.12.15) 115円

- ◇[主張] 新年1月の三者協議に向けさらに10万筆の署名を
- ◇第73回全国人権・同和教育研究大会(奈良大会 11/26・27)報告
- ◇部落解放・人権確立第41回全九州研究集会(11/29・39)報告
- ◇「だい33かいよみかきこうりゅうかい(11/13)」報告
- ◇奈良県連教育・保育運動部の「2020地域の保育所(園)、こども園についてのアンケート」調査報告 森本鶴美
- ◇[本の紹介]『満州分村移民と部落差別 熊本「来民開拓団」の悲劇』エイミー・ツジモト著/えにし書房/A 5判/252頁/ 2,000円+税 紹介 矢野治世美(熊本学園大学准教授)
- ◇[東奔西走 43] 世界と出会う場所と差別のない職場 李信恵
- ◇「だい33かいよみかきこうりゅうかい」から12 松原更池識字学校 山内たち子さん

■解放新聞愛知版 511■

(部落解放同盟愛知県連合会刊 2022.8.1)

- ◇部落解放をめざす愛知研修会(6/15)報告

■解放新聞愛知版 512■

◇部落解放大阪青年共闘研修会(10/15)で「ドナイシマツカゲーム(同和問題をテーマにしたカードゲーム、解放同盟府連青年部作成)を試行

■解放共闘大阪 1144■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.11.15)

◇狭山事件の再審を求める市民集会(10/28・東京)記事

◇2022年部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会(10/28 東京)開催

■解放共闘大阪 1146■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.12.15)

◇部落解放共闘定期総会関連記事

◇狭山事件第52回三者協議関連記事

◇ネット差別関連記事

■解放共闘大阪 狭山特集号外■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.10.1)

◇事実調べ実現へ大きな世論を 中野勝利

◇必ず裁判所は鑑定人尋問を 石川一雄さん 世論喚起が鍵 署名第1次集約10月26日

◇第3次再審 狭山再審無罪獲得へ全力で

■解放新聞 号外(狭山事件関連)■

(解放新聞社刊 2022.9.21)

◇[主張] 鑑定人尋問・鑑定の実施を求める署名運動スタート

◇8/28 狭山事件再審弁護団、東京高裁に「事実取調請求書」を提出

◇えん罪・狭山事件 年表

■解放新聞 3038■

(解放新聞社刊 2022.9.5) 115円

◇[主張]「全国部落調査」復刻版出版事件 控訴審闘争の勝利のために全国的なとりくみを推進しよう

◇8/20、21 部落解放第54回全国高校生集会・第66回全国青年集会 徳島で開催 26都道府県連が集結

◇8/15 部落解放同盟中央本部、全国同和行政促進協議会と意見交換

◇ドキュメンタリー映画『ウクライナから平和を叫ぶ Peace to You All』紹介

◇8/5 大阪府水平社創立100周年記念集会を大阪府

連が開催

■解放新聞 3039■

(解放新聞社刊 2022.9.15) 115円

◇[主張] 部落解放第19回全国識字経験交流会集会を成功させよう

◇8/29 狭山事件再審弁護団 東京高裁に鑑定人尋問などを請求

◇8.31 戦争を許さない・9条壊すな! 総がかり実行委員会が「安倍元首相『国葬』反対! 8.31国会正門前大行動」実施 4000人集結

◇識字・日本語問題をみんなのものに「9月は識字月間」

◇[第65回全国女性集会分科会報告]

◇8/29 狭山事件再審弁護団が東京高裁第4刑事部に検察官意見書に反論する新証拠を提出と事実取調請求書を提出

◇[東奔西走40] 有田芳生さんとウトロ地区へイトクライム事件判決 李信恵

■解放新聞 3040■

(解放新聞社刊 2022.9.25) 115円

◇[主張] 狭山事件の事実取り調べの実施を求め新たな署名活動を

◇9/9 拡大全国狭山活動者会議狭山住民の会全国交流会開催 東京高裁へ「事実取調請求書」提出 石川一雄さん・早智子さんメッセージ

◇第79期第1回全国生活福祉運動部長会議(9/7)記事

◇識字・日本語問題をみんなのものに「9月は識字月間」

◇[第65回全国女性集会分科会報告]

◇8/29 狭山事件再審弁護団が東京高裁第4刑事部に検察官意見書に反論する新証拠を提出と事実取調請求書を提出

◇[東奔西走40] 有田芳生さんとウトロ地区へイトクライム事件判決 李信恵

■解放新聞 3041■

(解放新聞社刊 2022.10.5) 115円

◇狭山事件の事実調べ実現をめざして「署名運動」スタート

収集逐次刊行物目次 (2022年10月～12月受入)

—各逐次刊行物の目次の中から部落問題に関係のあるものを中心にピックアップしました—

■アイユ376■

(人権教育啓発推進センター刊 2022.9.15)

- ◇[インタビュー]「ウトロに生きる ウトロで出会う」
田川明子
- ◇[寄稿]「インターネット時代の誹謗中傷と侮辱罪
の厳罰化の意義」 斎藤理央

■アイユ 377■

(人権教育啓発推進センター刊 2022.10.15)

- ◇ひょうご・ヒューマン フィスティバル2022 in ひ
めじ 姫路市人権のつどい(8/28)関連記事

■アイユ 378■

(人権教育啓発推進センター刊 2022.11)

- ◇「日本における宗教による女性差別の構造」 源淳
子 インタビュアー：藪本雅子

■IMADR通信 212■

(反差別国際運動刊 2022.12.1)

- ◇[特集]ヘイトクライムに対抗する
 - ・ウトロ放火事件と平和祈念館 郭辰雄
 - ・関東大震災朝鮮人・中国人虐殺百年 林伯耀
 - ・国連と反ヘイト—2つの取り組み
- ◇不可視化に抗するために—100年前の部落女性何
を伝えようとしたか2 宮前千雅子

■ウトロレター 2■

(ウトロ平和祈念館刊 2022.11)

- ◇「ウトロ地区ヘイトクライム裁判」京都地裁判決
後シンポジウム～ウトロ放火事件から見る社会か
らの「排除と孤立」～を開催

■解放共闘大阪 1139■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.9.1)

- ◇7/27 同和問題解決(部落解放)・人権政策確立要
求大阪実行委員会第30回総会関連記事
- ◇7/26 大阪教育活動ネットワーク第5回総会開催

■解放共闘大阪 1141■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.10.1)

- ◇拡大全国狭山活動者・住民の交流会 鑑定人尋問の
実現へ向け年内全国20万人署名運動
- ◇えせ同和行為等根絶大阪連絡会議が総会 報告

■解放共闘大阪 1142■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.10.15)

- ◇部落解放中央共闘会議第47回総会 関連記事
- ◇府連が府議会にインターネット上の人権侵害に対
する実効性のある施策を求める要請行動実施

■解放共闘大阪 1143■

(部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.11.1)

事務局より

◇2022年度(年間4回発行)の「京都部落問題研究資料センター通信」は今号が最終となりました。これまでご高覧いただきました皆様にお礼申し上げます。

◇年度末には「2022年度 差別の歴史を考える連続講座」の講演録を発行する予定です。ご希望の方は下記までご連絡ください。

□所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

□TEL/FAX 075-415-1032 □E-mail qm8m-ndmt@asahi-net.or.jp

□URL <http://shiryo.suishinkyokai.jp>

□開室時間 月曜日～水曜日・金曜日・第2・第4土曜日10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口駅」(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩5分